



## いきいき健康術 第127回

町立病院・診療所の医師や専門職員が  
健康情報をお届けします。

# 『レントゲン検査について』

やまうちとしゆき  
山内敏行 主任 診療放射線技師  
京丹波町病院

今回はレントゲン検査でよく質問される放射線の疑問についてお話します。

**Q** 何度もレントゲン検査を受けて、体に影響はありませんか？

**A** 何度受けても体に影響することはありません。医療現場で使用している放射量はとても少なく、人間の体は放射線からダメージを受けても回復する力が備わっているからです。放射線被ばくの影響を心配して検査を受けず、病気の発見が遅れる方が問題です。安心して検査を受けてください。

**Q** レントゲン検査を受けると全身に放射線が当たるの？

**A** 放射線は診断に必要な箇所だけに当たります。例えば、胸のレントゲン検査なら、胸以外の手足や腹部などに放射線が当たることはありません。

**Q** なぜ、服を脱いだり、湿布などを取ったりする必要があるの？

**A** ボタン・チャック・ネックレス・カイロ・湿布・ヘアピン・ブラジャー・プリント柄のシャツなどは写真に写り込み、医師の診断に影響が出ますので取っていただいています。

**Q** なぜ息を止めて撮影するの？

**A** 息を止めると体の動きも止まるので、ブレずに撮影することができるからです。

**Q** 放射線を使う検査には、どんな検査があるの？

**A** 代表的な検査としてはレントゲン検査・CT検査・胃のバリウム検査・核医学検査・血管撮影検査があります。MRI検査や超音波検査等は放射線を使っていません。

レントゲン検査の実施にあたっては、医師が検査の必要性を慎重に考慮し、診療放射線技師ができるだけ被ばく線量を少なくする努力をしていますので、心配せず検診や検査を受けてください。

もし、レントゲン検査で不明な点や不安なことがありましたら、医師または診療放射線技師に相談してください。

京丹波町病院 電話 0771-86-0220  
町立医療施設の敷地内は全面禁煙です  
ご理解とご協力をお願いします